長崎市立愛宕小学校　学校だより 第18号　　令和５年２月１３日発行
文責 校長 吉田由美子

あたごの子

～優しい子・元気な子・賢い子～

２月は、「つなぐ」

２月に入り暖かさも相まって、長崎県内では新型コロナウィルス感染症の新規患者数が減少しています。愛宕小でも、感染者や濃厚接触者となる児童がいない日もありました。同時に、インフルエンザへの感染者も大変少なくなってきています。

そこで２月の全校集会は、３年ぶりに全校児童が一堂に会し、体育館で行うこととしました。全校児童の顔を見ながら話をしたり、元気な挨拶や返事を聞いたりすることができてとてもうれしかったです。そして、話の中では、３学期に**頑張ってほしい**とお願いしたことについて、１月の様子を紹介しました。

一つ目が、**「ありがとう」を伝えること**でした。私は、毎朝皆さんの登校を見守るために通学路を歩いていますが、３学期になってから挨拶の後に「いつもお迎えありがとうございます。」と言われることがありました。3年生の女の子だと思いますが、にこにこ笑いながら声を掛けてくれるので、私も笑顔になり心が温かくなりました。そしてその女の子と**心がつながった**気がしたのです。**「ありがとう」**はおまじないのようですね。学校の中でも地域でも、もっともっと聞きたいです。

また、私は毎朝、運動場を走っていますが、12月より寒かった１月に、12月よりもたくさんの人が走っていて、抜かれてしまうことも多くなりました。きっと、目標を達成するために、一生懸命走っているのだなと思いうれしくなりました。そう、二つ目は、**寒くても外で運動すること、遊ぶこと**です。休み時間には、学級の友達と一緒に大縄跳びに挑戦する学級も増えています。１年生や２年生は、長崎県のフィットネスチャレンジにも挑戦して、県内の同じ学年の中で７位や８位になることができていてすごいと思います。新記録に挑戦している学級もあり、このような学級では、大縄が上手になるだけでなく、皆の**心がつながっている**のだと感じます。

さらに、３学期には、多くの学年・学級の授業を観ることができました。特に、算数の授業では、ジャンプ問題に挑戦するために、皆で力を合わせて学習していました。一人では解けない問題も、「分からない。」を言い合って、分かろうと協力すれば、難しい問題も解くことができ、学習することが楽しくなっていくようでした。そう、三つ目が、**学び合う**でした。**愛（Ｉ）チャレンジ**も合格するまで頑張る人が増え、一回で合格したり、正解が増えたりしている人が多く、とてもうれしいです。この学び合いや頑張りをぜひ次の学年に**つなげてほしい**と思います。

そして２月のテーマを**「つなぐ」**とすることを伝えました。「学級・学校、家庭・地域でも**心と心をつないで**いきましょう。**今の学びを新しい学年へとつないで**いきましょう。そして**今の成長を未来へとつないで**いきましょう。そのような**２月**にしたいと思います。」という私の呼び掛けに、全校児童の**「はい。」**という元気な返事を聞くことができました。

思いやり

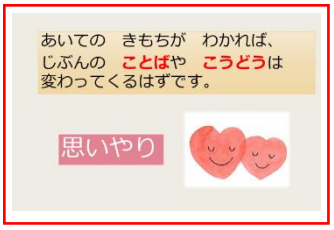
全校集会では、２月の生活目標**「思いやりのある行動をしよう」**について、担当の山本教諭と共にみんなで考えました。

「思いやり」とは、**「相手の立場に立って、その気持ちを考えること」**といわれていますが相手の気持ちを考えることは難しいことです。

そこで、まず、人はどんな気持ちになるのか思い出した後に、いじわるされたとき、ひとりぼっちのとき、長縄に入れないとき、みんなの前に出て発表するときなどに、その人がどんな気持ちになるか、考えていきました。

そして、そのときに自分だったらどんな言葉を掛けるのか、一人一人が自分ごととしてしっかりと考えることができたと思います。

「思いやり」とは「**思い**を**やる**」こと、つまり「**相手を大切にする思い**を**相手に届けること**」です。言葉や行動で伝えていきましょう。



第22回　青少年意見発表会

年が改まってから、地域の行事も感染予防対策を講じながら、少しずつ開催の方向に向かっています。この会も、１月15日、３年ぶりに市民会館ホールで開催され、小学生11名、中学生７名が意見発表を行いました。

愛宕小学校代表は、**６年生の中村心美**さんで、**「レジ袋から考える環境問題」**と題して海洋汚染を中心とした環境問題について、堂々と自分の意見を述べることができました。意見文の作成から発表の練習まで、納得いくまで準備した成果が見られ立派でした。

御尽力いただきました中央公民館区青少年育成協議会の皆様に感謝申し上げます。

最後に発表のまとめの部分を紹介します。

（前略）そのため、当たり前のことですが、外で出たごみは持ち帰る、分別をする、繰り返し使えるものを選ぶ、マイボトルを持ち歩く、このように環境改善のために自分たちでできることを今までより意識して行っていくことが大切です。

とても小さなことですが、一人一人が気を付けることで、レジ袋有料化によるプラスチック削減とともに、大きな効果があるに違いありません。長崎の海だけでなく、世界中の海が今よりも美しい海になるために、プラスチックごみを減らそうという意識を私たちが作っていきたいです。海の生き物だけでなく人間も安心して暮らせるように、努力と知恵を出し合い、協力して行動しましょう。